

発刊のことば



財団法人 日本消防協会

会長 徳田正明

我が国が、自然災害に脆弱な国土であり、その被害を軽減するために多くの先人たちが英知を結集し、たゆまぬ努力を重ねてきたところでもあります。

しかしながら、今回の阪神・淡路大震災はその努力を根底から覆すかの如く、未曾有の地震災害となりました。多くの尊い命を奪い、多数の負傷者と莫大な経済的損失を発生させ、極めて甚大な被害をもたらしました。消防団職員は自らも被災者でありながら、その使命と責任と行動力で、不眠不休の献身的な活動を展開しました。

今回の大震災を踏まえ、多くの尊い犠牲を無にすることなく、これらの歴史的事実を後世代に永く伝えることが消防人としての責務であり、将来予想される地震等大規模非常災害に対して、この教訓を必ず生かしていかなければならないという強い決意に至り、本書を世に問うことにしました。

本書は、消防団職員等による救助・消火・救急活動の実態を調査するとともに、ライフライン施設をはじめとする被害状況や経済に対する影響、復興への歩みなど幅広い分野における資料収集を行い、これらによって得られた資料や教訓の数々を「阪神・淡路大震災誌」としてとりまとめたものであります。

21世紀を目前に控え、高齢化社会の到来等多くの諸問題が山積し、不透明な時代と言われているなか、阪神・淡路大震災を機に「国民が安心して暮らせる防災体制の強化」が、我が国の最重要課題のひとつとなり、私たち国民もそれぞれの地域における防災対策について真剣に考えなくてはならないと思います。

本書が消防防災に携わるすべての人はもちろんのこと、国民一人ひとりの災害に対する備えに役立てば幸いです。

ここに、犠牲になられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興を心から願うものであります。

平成8年3月

発刊によせて



消防庁長官 秋本 敏文

阪神・淡路大震災から1年余が経過しました。戦後最大の災害であり、これにより国民の安全に対する関心はかつてない高まりをみせ、消防防災体制の充実等災害に強い安全なまちづくりは我が国における最大の課題のひとつとなっております。

この大震災では、「自らの地域は自らの手で守る」という地域連帯の精神のもと、消防団員をはじめとする消防関係者が地域住民のために初期消火活動はもとより救助活動、災害防ぎよ、応急対策等の大変困難な作業を不眠不休で続けられました。そのなかで地域の守りの第一線で活動する消防団の重要性が国民に強く再認識されたところであります。

消防庁としては、地域の防災力を向上させ、地域住民の安全を確保するため、消防団の育成強化、装備の充実等を促進するほか、緊急消防援助隊の創設による全国的な相互応援体制の整備、情報通信ネットワークの強化、消防補助金の増額や地方単独事業の充実による整備財源の確保等、大震災の教訓を生かしながら、消防関係者と協力して消防防災体制の強化に努めているところであります。

このたび、財団法人日本消防協会では、阪神・淡路大震災において、自ら被災者でありながら地域の安全を守る中核として活躍した消防団員の諸活動を中心として「阪神・淡路大震災誌」を発刊されることとなりました。この震災における多くの教訓を後世に伝え、防災関係者のみならず、一般の国民の皆様へ震災の実状と貴重な体験を知っていただくことは、誠に時宜にかなった有意義なことと考えております。

この阪神・淡路大震災誌が、防災関係機関をはじめ国民一人ひとりの災害に対する備えの一助となることを願ってやみません。

平成8年3月

1995年1月17日午前5時46分

兵庫県南部地震発生

突如、うなるような地響きとともに地表を突き上げる激しい衝撃が早朝のまちを襲った。

震度7を記録した都市直下型地震は淡路島から神戸、阪神地域を一瞬にして崩壊させた。

死者6,308人、損壊家屋40万棟以上、火災件数294件。

わずか十数秒、しかし、その激震の破壊力は想像を絶する凄まじさだった。



懸命に消火活動にあたる神戸市の消防団



必死に救助活動を行う淡路島津名町の消防団



炎に包まれる長田区の住宅密集地

一刻も早い救助のために

救助・救出活動

地震による破壊、その瞬間から戦いは始まった。消防団員は家族の安否の確認もできないまま、人々の救助に走った。変わり果てた無残なまちでは、倒壊家屋の中に閉じ込められ、救出を求める叫び声が各所で起こっていた。救助活動は1分、1秒が命の明暗を分ける。1人でも多くの尊い命を救おうと、消防団は総力を挙げて救助・救出活動にあたった。不眠不休の戦いが続いた。

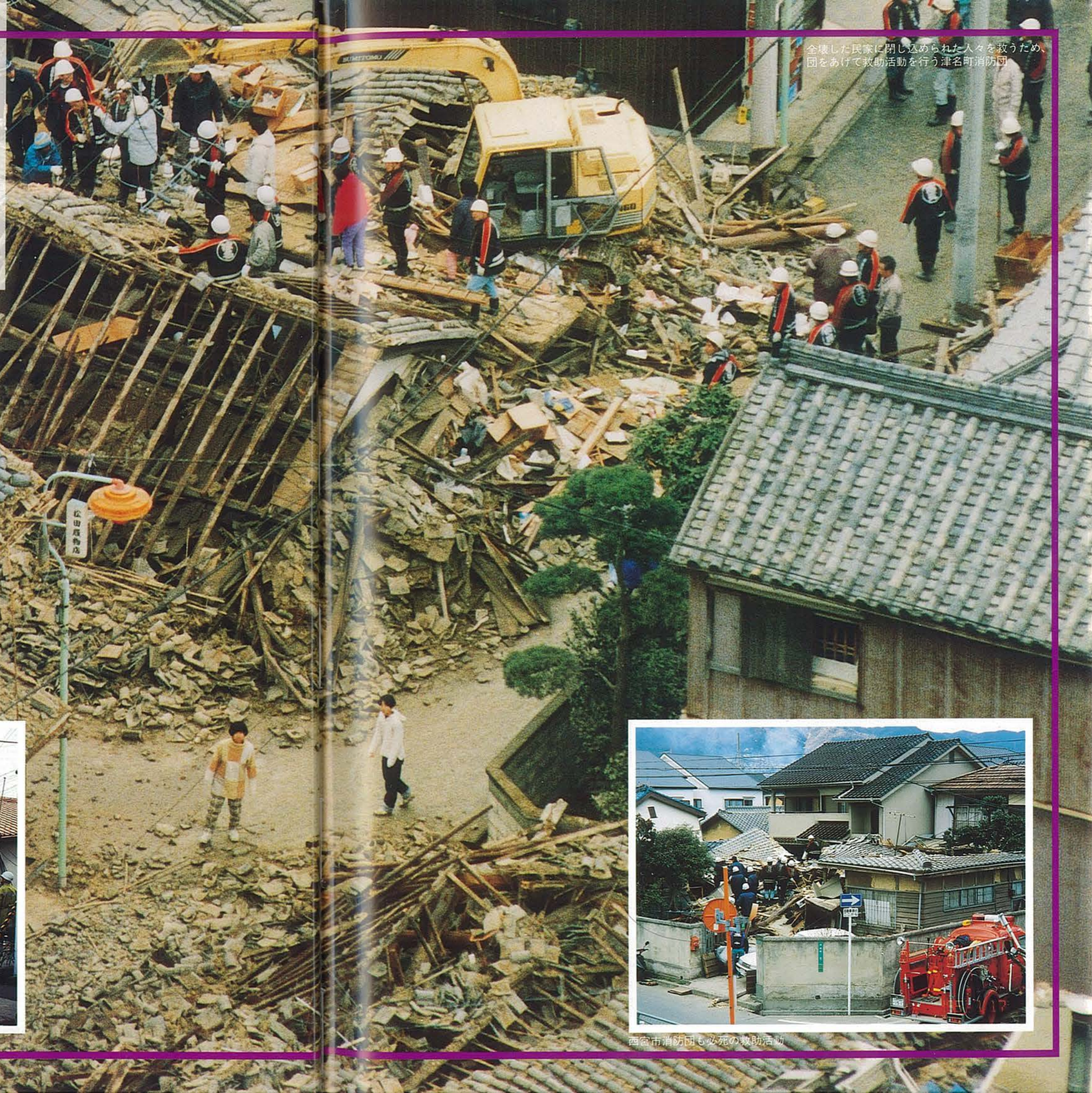
全壊した民家に閉じ込められた人々を救うため、団をあげて救助活動を行う津名町消防団



倒壊した民家で懸命に救助活動にあたる尼崎市消防団



西宮市消防団も必死の救助活動



瓦礫の下の命を救う

救助・救出活動



瓦礫をかき分けて検索する津名町消防団



スイス救助隊は捜索犬とともに行動



削岩機を使って検索する横浜市消防局隊員



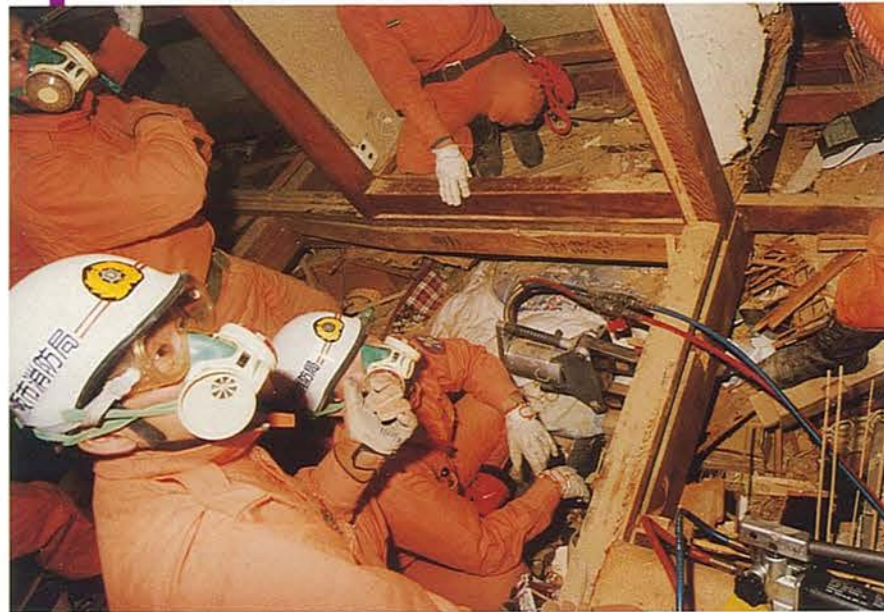
機動力を駆使して検索する一宮町消防団



北淡町では付近住民も協力して救助にあたった



ファイバースコープを使って検索する川崎市消防局隊員



「一刻も早く！」救援に駆け付けた大阪市消防局隊員も懸命の検索



声を頼りに検索を続ける西宮市消防団



名古屋市消防局隊員も倒れた家屋の隙間をかいくぐって検索



遠路駆け付けた東京消防庁隊員も全力をあげて検索にあたった

消防団による救助成功

木造家屋が一瞬にして倒壊した淡路島東浦町。

ここにも瓦礫の中に取り残された人がいた。崩壊した建物のすきまから聞こえるかすかな声を頼りに、のこぎりやチェーンソーを使って必死の救助活動が行われた。



「大丈夫か。頑張れ！」
励ましの声がかげ続けられる



瓦礫を慎重に取り除きながら、中へ



担架を用意する



救出成功。一瞬、安堵の笑みが



救助後、直ちに救急車で病院へ搬送

激震の爪痕

24時間ドキュメント

同時多発火災、高速道路の倒壊、ライフラインの途絶。文明の象徴ともいえる大都市は、一瞬にして崩壊した。逃げる間もなく倒壊した建物の下敷きになった人々。迫り来る火の手。情報入手が困難ななか、時間がたつにつれて被害の実態が明らかになり、悪夢のような惨状があらわになっていった。



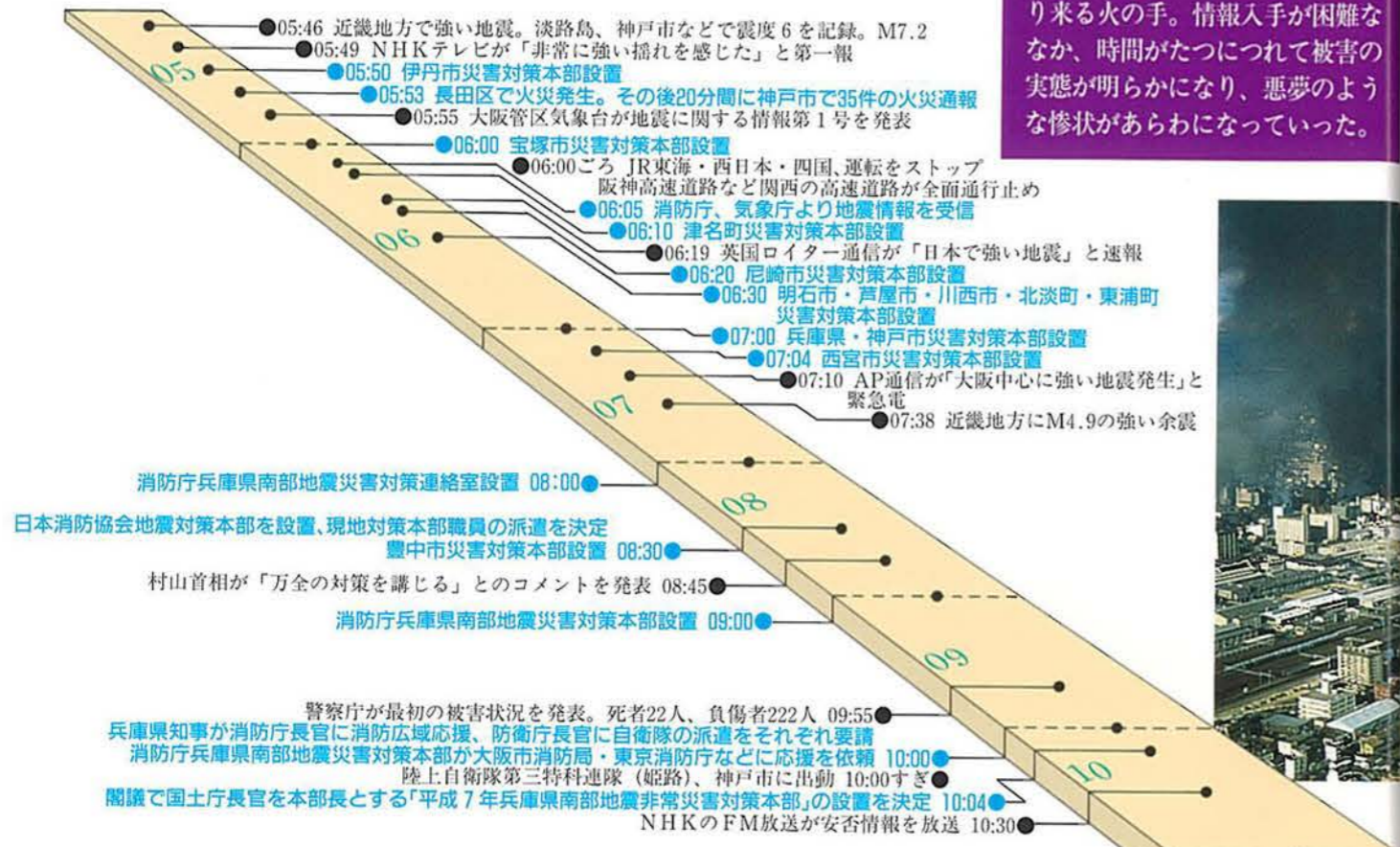
軒並み倒壊した淡路島一宮町郡家地区の民家



神戸港では岸壁が陥没、コンテナが海中に沈んだ



西宮市仁川では土砂崩れが発生、34人が生き埋めになった



神戸市街各所で火災が発生、延焼が続く



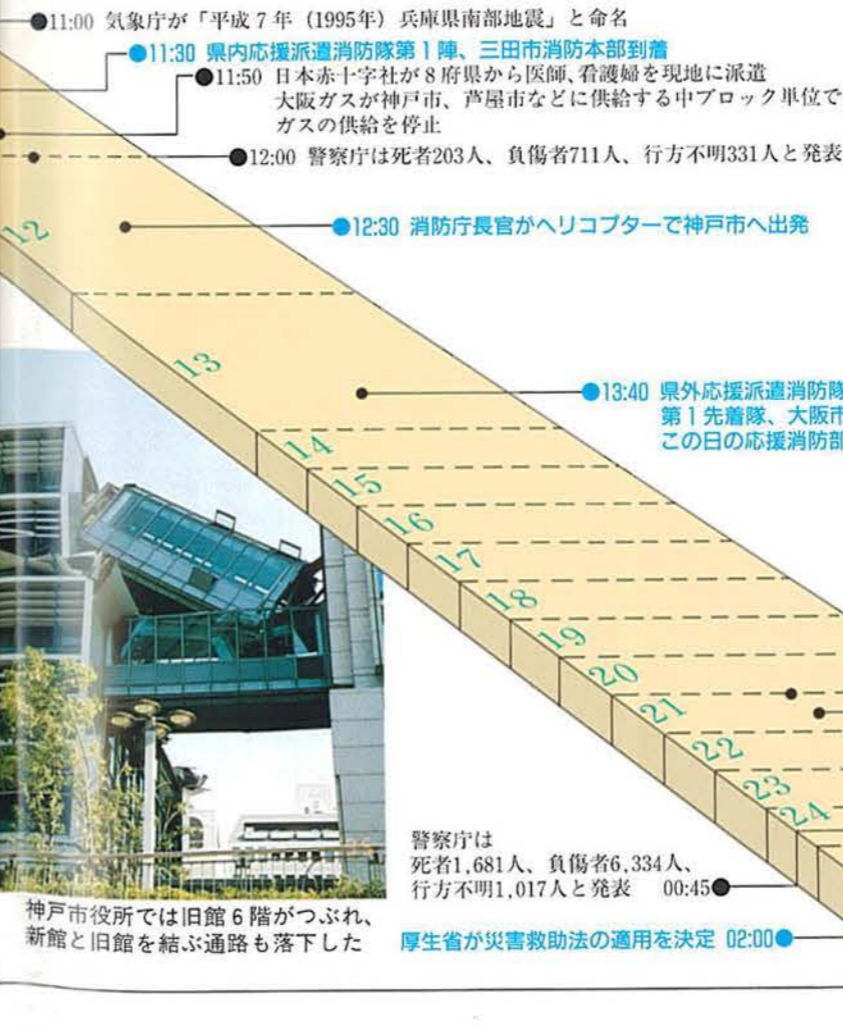
崩れ落ちた阪神高速道路



高架が崩れ、脱線した阪神電車



街中のビルも無残に倒壊



神戸市役所では旧館6階がつぶれ、
 新館と旧館を結ぶ通路も落下した



重要文化財の旧居留地15番館も全壊した

- 21:00 大阪市消防局の消防艇「なみはや」「たかつ」が飲料水と食料を積み神戸へ
- 21:20 長田消防署に岡山、大阪など十数都市から応援の消防隊到着消火活動開始
- 23:30 神戸市内の火災件数、109件

炎と戦う

消火活動

瓦礫の山に消防車は進入を阻まれた。ほとんどの消火栓も防火水槽も使用できなかった。考えられるすべての水を……海や川、井戸、プールなどからポンプで吸水、何台ものポンプ、何十本ものホースを中継して放水が行われた。次々と上がる火の手。ホースを持つ手はすでに感覚すらなかったが、凄まじい火勢にもひるむ者はいなかった。



猛火と戦う神戸市消防局隊員



西宮市甲子園口北町で消火にあたる西宮市消防団



あまりの被害の大きさに茫然と立ち尽くす消防団員



一般の人も消火に立ち上がった

消火の水はこうして確保された



消防艇で海水を吸い上げる



海水を吸い上げるポンプ車



水の中継するポンプ車は何台にもなった



何十本ものホースをつないで消火活動が行われた



神戸市長田区で消火にあたる神戸市の消防団



「せめて延焼だけでも食い止めたい！」
西宮市消防団の必死の消火活動



敢然と炎に立ち向かう
大阪市消防局隊員



神戸市内の消火活動は長時間に及んだ



京都市消防局隊員も一丸となって消火活動にあたった

被災者の暮らしを支える

支援活動

住む家を焼かれ、家族を失い、そのうえ厳しい避難所生活を強いられた被災者。全国から次々と送られてくる大量の救援物資の配付や給水活動、堤防の決壊など二次災害の防止活動、さらに深夜の防犯パトロールと、不安におびえる人々のために消防団員は奔走した。地域の安全を守るその姿は被災者にとって力強い心の支えとなった。



空輸された救援物資を自衛隊員とともに運搬する姫路市の網干消防団



被災者のための貴重な米をフォークリフトで搬送する明石市消防団員



仮設住宅の資材を運ぶ三田市消防団



市民へ給水する西宮市消防団



地震のため溜め池に亀裂が入り、決壊の危険が生じたため、池の水をポンプで排水する北淡町消防団

希望の明日へ

天皇皇后両陛下、被災地へ

天皇皇后両陛下は1月31日に被災地を訪れ、避難所で不自由な生活を送る人たちに、激励のお言葉をかけられた。大きな打撃と深い悲しみから立ち上がろうとする人々は、明日への勇気と希望を与えられた。



被災者にお見舞いのお言葉をかけられる天皇皇后両陛下

日本消防協会の支援活動

日本消防協会では、被災地へ応援隊を派遣したほか、自ら被災しながらも身を挺して消火・救助活動にあたった地元消防団員を支援するため、救援物資や義援金を贈るなど様々な活動を行った。



兵庫県消防協会総裁貝原俊民知事に、全国消防団員からの義援金を贈る徳田正明日本消防協会常任副会長（現会長）



日本消防協会から贈られたウォーターバッカーで飲料水を配る消防団員

第1編

震災前の阪神・淡路地域の概要

第1章 自然条件及び社会条件

第1	自然条件	3
1	兵庫県全域	3
2	神戸市	3
3	阪神地域	5
4	淡路地域	5
第2	社会条件	6
1	人口の推移	6
	(1) 兵庫県全域／6 (2) 神戸市／6 (3) 阪神地域／6 (4) 淡路地域／6	
2	土地利用の実態	7
	(1) 市街地／7 (2) 交通／7 (3) ライフライン／8 (4) 公共施設／8	
	(5) 危険物施設／9	
3	都市活動の特性	10
	(1) 産業・商業／10 (2) 観光・文化／11	

第2章 被災地域における地震災害対策

第1	防災に関する計画	13
第2	被災地域における「地域防災計画」の概要	14
1	被害想定	14
	(1) 兵庫県地域防災計画／14 (2) 神戸市地域防災計画／17	
	(3) 尼崎市地域防災計画／17	
2	災害予防計画	18
	(1) 火災予防計画／18 (2) 広域避難場所等整備計画／19	
	(3) 地下埋設物等災害予防計画／19	
3	災害応急対策計画	21
	(1) 災害対策本部の設置／21 (2) 避難計画／22 (3) 被災者救助計画／22	
	(4) 消防活動計画／22 (5) 緊急道路確保計画／23	

第3章 消防力の現勢

第1	被災地における常備消防体制	24
第2	被災地における消防団体制	26

第2編 兵庫県南部地震の概要

第1章 地震概論

第1	地震発生メカニズム	29
1	プレートテクトニクス理論	29
2	プレート間地震	30
3	直下型地震	31
4	活断層	31
5	地震発生分布	32
6	兵庫県における過去の地震活動と被害	33
第2	地震用語等	35

第2章 兵庫県南部地震

第1	本震の諸元	39
第2	各地の震度等	40
1	震度分布	40
2	震度7の分布	40
3	発震機構	42
4	余震活動	42
5	関連現象	44
第3	地震の特徴	45
1	大都市を襲った直下型地震	45
2	観測史上最高の震度7を記録	45
3	横揺れを上回る縦揺れを観測	46
4	家屋倒壊により圧死者が多数発生	46

第3編 阪神・淡路大震災の被害

第1章 被害の概要

第1	人的被害	52
1	死者	52
	(1) 性別・年代別状況/52 (2) 死亡原因別状況/53	
	(3) 死亡場所別状況/54 (4) 死亡日時別状況/55 (5) その他/55	
2	負傷者	55

第2 物的被害	57
1 建築物の被害状況	57
(1) 木造建物／58	(2) 非木造建物／63
2 火災による被害状況	66
(1) 火災発生状況／66	(2) 震災時の気象状況／70
(3) 延焼拡大の推移／72	(4) 焼け止まり要因／78
(5) 出火原因の分類／81	
3 土地の被害状況	83
(1) 土砂崩れ(地滑り)／83	(2) 液状化／84
(3) 断層亀裂／86	
4 危険物関係施設等の被害状況	86
(1) 被害状況／86	(2) コンテナ等特別防災区域内の状況／89
5 消防施設等の被害状況	91
(1) 消防庁舎／91	(2) 消防車両等／91
(3) 消防水利／92	(4) 消防通信施設／94
(5) 非常電源設備／94	
6 供給・処理ライフライン施設の被害状況	94
(1) 上水道施設・下水道施設／94	(2) 電力供給施設／95
(3) ガス供給施設／98	
7 情報関連施設の被害状況	99
(1) 通信施設／99	(2) 放送施設／99
(3) 報道関係施設／99	
8 交通関係施設等の被害状況	100
(1) 道路／100	(2) 橋梁／101
(3) 鉄道／102	
9 港湾・空港施設の被害状況	105
10 河川関係の被害状況	107
11 医療・救護施設の被害状況	109
12 公共施設・文化財等の被害状況	110
13 産業・商業等の被害状況	113

第2章 社会・経済に与えた影響

第1 経済に与えた影響	116
1 運輸施設等の被害に伴う影響	116
2 主な産業の被害に伴う影響	116
3 被害総額とGDPへの影響度	118
4 市民生活経済への影響	119
第2 社会生活に与えた影響	121
1 被災住民への心理的影響	121
2 被災住民間の協力関係	121
3 居留外国人への対応	122
4 犯罪等の動向と対策	122

第4編 震災時の応急対策

第1章 国及び被災自治体の対応

第1 応急対策措置	127
1 初動期の対応	127
(1) 国の初動体制	127
(2) 自治省消防庁の初動体制	128
(3) 兵庫県の初動体制	129
(4) 災害救助法の適用	130
(5) 激甚災害の指定	130
2 災被害対策本部の設置	130
(1) 政府の非常災害対策本部の設置	131
(2) 緊急対策本部の設置	132
(3) 兵庫県南部地震対策担当大臣の任命	132
(4) 緊急救援活動のための連絡所等の設置	132
(5) 自治省消防庁災害対策本部の設置	132
(6) 兵庫県災害対策本部の設置	133
(7) 神戸市災害対策本部の設置	138
3 国及び他都市への応援要請の状況	140
(1) 自治省消防庁への応援要請	140
(2) 他都市消防への応援要請と広域応援活動	140
(3) 自衛隊への応援要請	141
(4) 海上保安庁への応援要請	141
(5) 他府県警察への応援要請	141
(6) 他府県等への職員派遣の要請	141
(7) 建設業者等への要請	142
4 災害通信活動	143
5 災害情報収集・伝達	143
6 住民への避難勧告	144
7 交通規制の実施	145
8 災害広報活動	146
(1) 報道機関との連携	146
(2) 臨時災害FM局の開局	147
(3) 広報誌等の発行	147
(4) 情報センターの設置	148
9 避難場所・仮設住宅の確保	149
(1) 避難所の設置等	149
(2) 応急仮設住宅対策	150
(3) 船舶のチャーター	151
10 食料等の確保	151
(1) 自治省消防庁による物資等の輸送	151
(2) 緊急用食料の確保	152
(3) 緊急給水の実施	153
(4) 神戸市消防局の対応	153
(5) 毛布の確保	154
(6) 生活必需物資の流通確保対策	154
11 医療施設・医薬品等の確保	155
(1) 救護班の編成等	155
(2) 救護所における医療の提供	155
(3) 日本赤十字社との連携	155
(4) 医薬品等の確保	156

第2	各地域からの救援物資及び義援金等	157
1	救援物資	157
2	義援金	158
	(1) 募集委員会の設置/158 (2) 義援金の受付・配分状況/158	
3	外国からの援助	160
第3	日本消防協会及び府県消防協会の対応措置	161
1	日本消防協会の対応	161
	(1) 救援活動/161 (2) 大規模非常災害対策に関する緊急特別決議/163	
	(3) 救援物資の交付/164 (4) 義援金の交付/165	
2	兵庫県消防協会の活動状況	165
3	大阪府消防協会の活動状況	166
4	徳島県消防協会の活動状況	167
第4	日本防火協会の対応措置	168

第2章 消防機関等の対応

第1	地元消防本部の活動	171
1	初動時の対応	171
	(1) 神戸市消防局/171 (2) 神戸市消防局各消防署/173	
	(3) 尼崎市消防局/175 (4) 西宮市消防局/175	
	(5) 芦屋市消防本部/175 (6) 伊丹市消防局/175	
	(7) 宝塚市消防本部/176 (8) 川西市消防本部/176	
	(9) 明石市消防本部/176 (10) 淡路広域消防事務組合消防本部/177	
	(11) 豊中市消防本部/177	
2	非常招集の状況	177
	(1) 神戸市消防局/177 (2) 尼崎市消防局/179 (3) 西宮市消防局/179	
	(4) 芦屋市消防本部/179 (5) 伊丹市消防局/179 (6) 宝塚市消防本部/180	
	(7) 川西市消防本部/180 (8) 明石市消防本部/180	
	(9) 淡路広域消防事務組合消防本部/180 (10) 豊中市消防本部/180	
3	消火活動の概要	181
	(1) 神戸市消防局/181 (2) 神戸市消防局各消防署/181	
	(3) 尼崎市消防局/187 (4) 西宮市消防局/187 (5) 芦屋市消防本部/188	
	(6) 伊丹市消防局/188 (7) 宝塚市消防本部/188 (8) 川西市消防本部/188	
	(9) 明石市消防本部/188 (10) 淡路広域消防事務組合消防本部/190	
	(11) 豊中市消防本部/190	
4	消防水利の確保と消防戦術	191
	(1) 長距離中継送水戦術/191 (2) 渴水対策の運用による戦術/195	
5	消防活動障害要因の発生	196

目 次

(1) 消防無線通信の輻輳／196	(2) 交通渋滞の発生／196	
6 救助活動の概要		196
(1) 神戸市消防局／196	(2) 神戸市消防局各消防署／197	
(3) 尼崎市消防局／200	(4) 西宮市消防局／201	(5) 芦屋市消防本部／201
(6) 伊丹市消防局／202	(7) 宝塚市消防本部／202	(8) 川西市消防本部／202
(9) 明石市消防本部／203	(10) 淡路広域消防事務組合消防本部／203	
(11) 豊中市消防本部／203		
7 救急活動の概要		204
(1) 神戸市消防局／204	(2) 神戸市消防局各消防署／206	
(3) 尼崎市消防局／208	(4) 西宮市消防局／208	(5) 芦屋市消防本部／209
(6) 伊丹市消防局／210	(7) 宝塚市消防本部／210	(8) 川西市消防本部／211
(9) 明石市消防本部／211	(10) 淡路広域消防事務組合消防本部／211	
(11) 豊中市消防本部／212		
8 消防ヘリコプターの活動状況		212
9 医療活動の概要		214
(1) 応急医療活動／214	(2) 保健医療活動／217	
(3) 被災被保険者等の対策／218	(4) 災害医療についての実態調査結果／218	
第2 地元消防団の活動		221
1 消防団員の非常参集状況		222
(1) 神戸市の消防団／222	(2) 尼崎市消防団／222	(3) 西宮市消防団／222
(4) 芦屋市消防団／222	(5) 伊丹市消防団／223	(6) 宝塚市消防団／223
(7) 川西市消防団／223	(8) 明石市消防団／223	(9) 淡路地域の消防団／223
(10) 豊中市消防団／223		
2 消防団員による活動状況		223
(1) 神戸市の消防団／223	(2) 神戸市各消防団／224	(3) 尼崎市消防団／229
(4) 西宮市消防団／229	(5) 芦屋市消防団／234	(6) 伊丹市消防団／234
(7) 宝塚市消防団／237	(8) 川西市消防団／238	(9) 明石市消防団／238
(10) 津名町消防団／239	(11) 北淡町消防団／241	(12) 一宮町消防団／242
(13) 東浦町消防団／242	(14) 五色町消防団／243	(15) 豊中市消防団／243
3 消防団員の公務災害等		244
4 消防団の要望調査		245
第3 国及び他都市消防等の活動状況		246
1 応援消防隊		246
(1) 他都市応援隊の出動／247	(2) 他都市応援隊の活動／247	
(3) 応援消防隊への指揮統制／247		
2 自衛隊		249
(1) 初動時の対応／249	(2) 自衛隊の主な活動／250	

3	警察	251
	(1) 活動概要／251	
	(2) 救助・救援・捜索活動／251	
	(3) 交通対策／251	
	(4) 住民のニーズに応えた諸活動／253	
4	海上保安庁	253
	(1) 救援物資、要員の輸送／254	
	(2) 航行安全対策／255	
	(3) 海底地形調査／255	
	(4) 航路標識等の復旧／255	
5	海外の救援・救助隊	255
	(1) スイス災害救助隊／255	
	(2) フランス災害救助特別隊／256	
	(3) イギリス国際救助隊／256	
6	企業自衛消防隊	256
7	自主防災組織	257
8	婦人消防隊	259
9	ボランティア活動	260
	(1) ボランティア活動の概要／260	
	(2) ボランティア活動受入体制等の整備／261	
	(3) ボランティアの活動内容／262	

第5編

復旧・復興対策

第1章 政府・各省庁等の対応

第1	住宅対策	266
1	公的賃貸住宅等の早期・大量供給	266
2	個人の自力による住宅再建等の支援	266
3	マンション建替えの促進	266
第2	瓦礫処理対策	266
第3	港湾機能の復旧対策	267
第4	被災者の支援対策	268
1	被災地における生活の平常化支援	268
	(1) 応急仮設住宅の建設等／268	
	(2) 災害弔慰金の支給等／268	
2	雇用の維持・失業の防止等	268
3	保健・医療・福祉の充実	269
4	学業支援対策	269
5	その他の措置	269
第5	財政措置対策	270
1	激甚災害の指定等	270
2	特別財政援助法等による国庫補助の特例	270
3	地方財政措置	272

(1) 災害復旧事業について／272	
(2) 震災復興事業用地の先行取得事業について／272	
(3) 歳入欠かん対策・災害救助事業等について／272	
4 平成6年度及び7年度補正予算等における阪神・淡路大震災対策	273
第6 関係法令の整備等	274
1 阪神・淡路大震災に係る法律	274
2 災害対策基本法及び大規模地震対策特別措置法の一部改正	275
3 消防組織法の一部改正	277
4 緊急消防援助隊の創設	278

第2章 施設等の復旧状況

第1 供給・処理ライフライン施設の復旧状況	284
1 上水道施設・下水道施設	284
2 電力供給施設	285
3 ガス供給施設	287
第2 情報関連施設の復旧状況	288
1 通信施設	288
2 放送施設	289
3 報道関係施設	290
第3 交通関係施設等の復旧状況	290
1 道路	290
2 橋梁	291
3 鉄道	291
第4 港湾施設等の復旧状況	292
第5 河川関係の復旧状況	293
1 河川	293
2 地滑り・崖崩れ等	293
第6 医療・救護施設の復旧状況	293
1 医療施設の活動状況	293
2 各種の医療提供	294
第7 公共施設・文化財等の復旧状況	295
1 官公庁施設等	295
2 学校関係施設	295
3 文化財等	295
第8 産業・商業等の復旧状況	295
1 企業・観光施設等	295
2 農林水産施設	298

第3章 復興に向けての今後の取組み

第1 被災地の復興計画	299
1 兵庫県	299
(1) 基本方針/299	
(2) 目標年次/300	
(3) 対象地域/300	
(4) 復興事業計画/300	
2 神戸市	309
(1) 目標別復興計画/309	
(2) 安全都市づくり/309	
(3) 市街地復興計画/310	
(4) シンボルプロジェクト/310	
(5) 実現に向けて/310	
3 阪神地域	311
(1) 尼崎市/311	
(2) 西宮市/312	
(3) 芦屋市/312	
(4) 伊丹市/313	
(5) 宝塚市/314	
(6) 川西市/314	
4 淡路地域	315
5 大阪府	315
第2 (財)阪神・淡路大震災復興基金による支援対策	316
1 住宅対策	316
2 産業対策	316
3 生活・教育対策	317

第6編 阪神・淡路大震災を振り返って

第1章 災害現場からの声（インタビュー）

35人の証言で綴る1月17日	321
----------------	-----

第2章 災害現場からの手記

震災、あの日を忘れない	355
-------------	-----

第3章 座談会「阪神・淡路大震災を語る」

被害の特徴と今後の課題	377
-------------	-----

第7編 大震災時における消防防災対策の教訓と課題

第1章 総説	413
--------	-----

第2章 大規模非常災害対策に関する今後の課題

1 大規模非常災害時における地域防災の中核を担う消防団の抜本的な充実強化	
--------------------------------------	--

目 次

(消防団の最小単位である部、班ごとの適切な人員、資機材の配置)	415
2 都道府県単位の消防団の広域的な即時応援体制の確立	416
3 大規模非常災害時における国の防災体制の見直し並びに防災関係機関の合同 訓練の推進	417
4 消防活動能力向上及び国民の防災行動能力育成のための教育訓練施設の整備	418
5 婦人防火クラブ等自主防災組織並びに事業所の自衛消防組織等の育成推進	419
6 国及び地方公共団体に係わる消防関係予算の倍増（防災組織の拡充並びに震災 対策施設、防災用資機材等の充実）	419
7 被災地の早期復興並びに災害に強い街づくりの推進	420

* * *

付属資料

資料 1 気象庁震度階級関連解説表	425
資料 2 日本の主な活断層	428
資料 3 木造家屋の被害分布	430
資料 4 阪神・淡路復興委員会意見及び提言	434
資料 5 阪神・淡路地域の復旧・復興に向けての考え方と当面講ずべき施策	447
阪神・淡路大震災誌編さん事業組織体制	448
協力団体	451
参考文献	453